



プログラム
8

地域共生社会について考える ～地域包括支援体制推進協議体(のみ共)～

実行主体 : 能美市健康福祉部いきいき共生課
日 時 : 2月21日(火) 18時～20時
会 場 : 寺井地区公民館 大ホール
参加者 : 93名



内容 横系プロジェクトチーム長の番匠副市長の開会挨拶の後、地域共生社会の実現を目指すために、市の関係部署の縦割りから丸ごとへの転換を図った「横系プロジェクトチーム」と、市民活動の横系でのつながりを目指す「地域包括支援体制推進協議体(のみ共)」の2本柱で、市民、関係団体、法人、企業、行政が一体となって取り組む「市の地域包括推進体制」の説明がありました。

その後、のみ共のテーマである①互助活動支援②相談支援③地域医療・介護④健康づくり・予防より、「住み慣れた地域で、つながりあう取り組み」の報告がありました。

報告は、地域で行われている互助活動の取り組みや複数の課題を抱える世帯をチームで支援する体制とアウトリーチ等を通じた継続的な相談支援事業の説明、地域医療・介護からは、メモリーケア・ネットワーク能美4グループ体制の一つで取り組んでいる災害に強いまちに向けての当事者力(自助力)を高めるための「安心防災帳」作成の取り組みと能美スマートインクルーシブ構築の取り組み(医療介護 DX)、健康寿命を延ばすための健康づくり推進員と食生活改善推進員が取り組むウォーキングや食生活習慣予防のための食を学ぶ調理実習の内容でした。

様々な取り組みを、市民や関係者等で共有し、住み慣れた地域でつながり合うことの必要性を確認しました。

意見交換の後、のみ共の座長 同志社大学社会学部 永田 祐 教授より、「のみ共」は、大切な協議の場であるため、皆さんには分野や立場を超えて一緒につながって協働の体制を作ってほしいとのアドバイスがありました。



「のみ共」の座長の永田教授と「のみ共」委員との意見交換の様子



強い互助づくりの支援体制構築
専門部会 重田委員長と林副委員長の報告

参加者の感想(一部抜粋)

- 地域包括支援の取り組みの幅が広がっているようで、心強く思いました。
- どのような活動も知る機会が無ければつなげられないと思うので、参加できてよかった。
- 幅広い様々な取り組みをたくさん聞け、このような場で共有することの重要さが伝わった。
- 様々な活動を知ることができたと共に、今後、市民として参加、支援に関わって行きたいと思った。